

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 講義と試験により、成績評価の客観化を促す。	→試験素点数、学部生と院生の成績、修了者の大学教員・研究職・高度専門職への就職者数。	C
2. 査読つき専門雑誌への投稿促進のため、複数教員による集団指導体制の強化により計画的に研究指導する体制を確保する。	→研究科のディスカッションペーパーへの院生の投稿数、査読つき専門雑誌への院生の投稿論文数。	C
3. 博士課程後期課程修了時の課程博士授与者を増やす。	→入学後5年間での課程博士号取得者数。	C
4. 日本学術振興会特別研究員（DC, PD）の申請者を増やし、採用者を毎年1名以上を確保する。	→日本学術振興会特別研究員（DC, PD）の申請者数、採用数。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

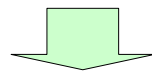
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	(方針) 国内外の一定水準以上の大学と同レベルの教育・成果水準の設定。 (現状説明) 1. 大学院の中核となる科目においては、講義とそれに基づく試験により成績は客観的に評価されている。現在は一定数以上の中核科目の単位取得が必須であるが、今後は中核科目の必修単位数の増加を含めたより厳密な制度化を進める。 2. 博士学位取得プロセスを定め、国内外の査読つき専門雑誌への投稿も条件のひとつとして定めており、ディスカッションペーパーを執筆する場合の調査料補助やサマリー校正料補助などの制度を設けているが、2009年度は大学院生による発表はなかった。
☆ 小項目6.4.2	(現状説明) 3. 課程博士号取得者の増加を目指しており、入学後5年間での取得ではないが課程博士号取得者は3名となった。 4. 学内外からの評価向上のために日本学術振興会特別研究員の申請者を増加させ、採用者数の増加を目指しているが、2009年度は採用者なしであったが、2010年度については1名決定した。 学位授与手続きについては、エコノミスト・コース（前期課程）では課題研究リポートによるコースもあり、最短1年半で学位の取得も可能としている。また、後期課程では、学位取得プロセスを公表すると同時に、ワークショップや定例研究会などの発表の機会を継続的に設けており、学位取得をサポートしている。また、博士学位審査では、外部の専門家を副査に必ず1名以上とすることを義務づけている。
☆ その他	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	



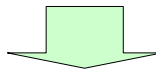
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

- 「目標」1、2は、6.3「教育方法」に配当するのが適切でしょう。
- 6.4は主として課程修了以降の成果を問うものなので、卒業生へのアンケート調査や進学・就職先へのアンケート調査等からアプローチすることが望まれます。

## 【学内委員】

- 成果、評価向上のための取組が評価できます。これらの取組が実を結ぶよう、院生への積極的な周知、働きかけが期待されます。
- 現状説明6.4.1の(方針)に書いてある「国内外の一定水準以上の大学と同レベルの教育・成果水準の設定」の水準、レベルはどこにおくのか。ベンチマークの設定と教育・成果水準を計る指標の設定が望まれます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし	
------	--

## V. 本項目の評価指標

### <全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

### <個別的な指標>
